

## コントラバス奏者・斎藤徹、舞踏家・工藤丈輝福岡公演

2005.6.22 (wed) 19:30 / 会場ぼんプラザホール 博多区祇園 8-3

本日は御来場まことに有り難うございます。昨年のちょうど今頃、網走の養護学校で演奏をしました。13年間無反応だった女子生徒がベースの音に反応して、大騒ぎになりました。「音の力」でしょうか。「音は何かに呼びかけるもの」、「踊りは何かを探す所作」という話が好きです。

人間以外の動物は背骨と口が直線上にあり、人間だけが直角になっているそうです。ワークショップを頼まれると、真上を向いて「おー」とか「おーい」とか声を出すことをやります。不思議な感覚が蘇り本当に「何か」を呼んでいる気がします。それは外に向かってと同時に自分の中に向かって呼んでいるのかもしれませんが。今日は、工藤さんの「何かを探す」指先と私の「何かに呼びかける」声がどこかで（あちこちで）交錯することを願っています。それには皆様の力が必須になります。個人個人の願い（今/ここ/私）がはっきりすることで、逆に、匿名の空間が出てくることを夢見ながら演奏したいと思っています。（斎藤徹）

演戯者の実感も観客への見え方も—この両者は合一するものと思うが一さまざまな末端の精緻な手順を踏んだのち、身体は大きな炎を放ち、空間は煙る。私たちは彼方へと遠くへ向けてそそり立つ一つのトーテムとなり、場の明滅は電灯なくとも内部より起こるでしょう。年かきの畏友、斎藤徹氏より初日の稽古に言われたのはこのようなことです。「装飾的なものは嫌うが、これに囚われて堅くなってはならない。私が土方異の作品に見てとるのは、明るい、巧まざるユーモアである。」と。（工藤丈輝）

斎藤徹：1955年10月27日、東京生まれ。コントラバス演奏、作曲。舞踊、演劇、美術、映像、書、邦楽、雅楽、能楽、タンゴ、ジャズ、ヨーロッパ即興、韓国の文化、アジアのシャーマニズムなど、様々なジャンルと積極的に交流。アヴィニヨン国際コントラバスフェスティバル、国際ベーシスト協会リッチモンド総会などコントラバスに関する活動を積極的に行っている。

工藤丈輝：1967年東京生まれ。慶大仏文科卒。在学中より演劇、ダンス、日舞を学ぶが、1989年、舞踏との出会いが以後の進路を決定付ける。玉野黄市、和栗由紀夫作品に出演のち、1992年よりソロ活動を開始。1995～1998年山海塾に参加。1997年には自らの集団「東京戯園館」を設立。さまざまな分野のアーティスト、カンパニーと関わりつつ、ソロをメインに世界各所で持続的に公演を行っている。

舞踏家・工藤丈輝 コントラバス・斎藤徹

## 「音と体」共演




22日、福岡で 即興の楽しみも

「装置や衣装や化粧に頼らず、演奏家は音、踊り手は体のみで表現しよう、と。いかに音と体が感応できるか」。互いのソロパートもあるが、即興が主となる予定という。

工藤は67年生まれ。慶応大学時代からダンスや演劇を学び、89年に舞踏と出会う。95〜98年に「山海塾」参加。今月はイスラエルで公演した。斎藤は55年生まれ。邦楽から雅楽、ジャズ、タンゴまでこなし、演劇や美術などの他ジャンルと交流してきた。今回使うコントラバスは、フランスで19世紀後半、20年ほどの間しか作られなかった名器だという。

「音と体の中から何が現れてくるか、静かに凝視してほしい」と工藤は話す。午後7時半開演。3500円。画廊香月（092・716・1033）。

### 文化短信

▼斎藤徹、工藤丈輝 福岡公演 22日午後7時半、福岡市博多区祇園のほんづらホール。斎藤⇨写真左⇨のコントラバス演奏に合わせ、工藤⇨同右⇨が即興

（撮影・康欣和）

で舞踏を演じる。斎藤は1955年、東京生まれ。ヨーロッパやアジア各地で舞踏、演劇、書、美術などに合わせ演奏活動を行う。今回はガンを呼ばれる1885年フランス製の希少なコントラバスで演奏。木下は1967年、東京生まれ。舞踏集団・山海塾を経て、自らの集団「東京戯園館」を97年に設立し活動している。2人の福岡公演は福岡アジア美術館でのイベント以来7年ぶり。入場料は前売り3000円、当日3500円。問い合わせは画廊香月⇨092（716）1032⇨。